



# 興 照 寺 報

平成27年11月

58号



発行 浄土真宗 興 照 寺  
〒890-0045 鹿児島市武一丁目25番12号  
電話 **099-254-3269** (代)FAX 099-254-0303



【西本願寺本山 晨朝法要（朝のお勤め）の風景】

一面 「おれいとげ」  
二面 パソコンで見る浄土真宗  
三面 秋季彼岸法要のお話・浄土真宗豆知識  
四面 報恩講のお知らせ他・平成二十八年のご法事など

## おれいとげ

今月は報恩講がありますが、どのような気持ちでお参りしたら良いのでしょうか。

北陸のあるお寺に有名な作家の方が取材に行かれたそうです。朝のお勤めに来っていた老婆に「あなたは何をお祈りに来たのですか？」と尋ねたところ「私はお祈りには来ていません」との返事でした。浄土真宗では「祈り」と言う言葉ができないだけ避けて使っています。一部には祈るに代わって「念じる」を使うようにとの指導もあるようです。

祈と念どう違うのでしょうか。  
祈書を引きますと

祈・いのる。神仏に願う。  
念・思い、気持ち、考え、注意、希望  
という意味が書かれています。  
念には、「ねがいもとめる」という意味は無いが、あっても薄いようです。

浄土真宗では我々が願う前に阿弥陀様がその救いのお働きをしてくださっているから祈願はいらないのです。

初めの老婆は言葉を続けて「私はおれいとげ（遂げ）に来ています」と答えたそうです。

真宗ではお念仏は唯一の報恩感謝の行為です。

報恩講にお寺に来られて一心にお念仏をお称え下さい。

## 「パソコンで見る 浄土真宗」

浄土真宗 (Shin-Buddhism)  
Pure Land Buddhism

私、実は機械音痴なのでありますが、必要に迫られてパソコンを使っています。今の時代、子供でも使いこなして無くてはならない物と成っていますが機能があまりにも多くて戸惑う事がしばしばあります。皆さんの中には十分に使いこなして不可欠なものとされておられる方もいらっしゃると思いますが、多くの方は、よく使えないのではないのでしょうか。しかし、そこを開いてみますとパソコンの箱、色んな情報・知識を教えてくれ、底知れぬ世界に私を運び入れてくれます。便利ではあります、便利すぎてまた戸惑う事となります。しかし今回は、そのパソコンを使って「浄土真宗」を検索してみました。興味深く、面白く検索、検索と続けていましたら抜けられなくなりましたが。さわりだけでも見て頂いて、興味を持たれたら有難いと思います。



「日本の仏教の宗旨のひとつである。鎌倉時代初期の僧である親鸞が、師である法然によって明らかになった浄土往生を説く真実の教えを継承し展開させる。親鸞の没後にその門弟たちが、教団として発展させる。」とあり、その後「目次項目が示されています。その中から名称と習俗を取り上げてみました。」

### ●名称について

開祖親鸞は、釈尊・七高僧へと継承される他力念仏の系譜をふまえ、法然を師と仰いでからの生涯に渡り、「法然によって明らかにされた浄土往生を説く真実の教え」を継承し、さらにその思想を展開することに力を注いだ。法然没後の弟子たちによる本願・念仏に対する解釈のちがいが、のちに浄土宗西山派などからの批判を受ける事につながる。

なお、親鸞は生前に著した『高僧和讃』において、法然(源空)について「智慧光のちからより、本師源空あらはれて、浄土真宗ひらきつつ、選択本願のべたまふ」と述べて、浄土真宗は法然が開いた

教えと解した。親鸞は越後流罪後に関東を拠点に布教を行ったため、関東に親鸞の教えを受けた門徒が形成されていく。

親鸞の没後に、親鸞を師と仰ぐ者は自らの教義こそ浄土への往生の真の教えとの思いはあったが、浄土真宗と名乗ることは浄土宗の否定とも取られかねないため、当時はただ真宗と名乗った。ちなみに浄土宗や時宗でも自らを「浄土真宗」「真宗」と称した例がある。

近世には浄土宗からの圧力により、江戸幕府から「浄土真宗」と名乗ることを禁じられ、「一向宗」と公称した。親鸞の法統が「浄土真宗」を名乗ることの是非については浄土真宗と浄土宗の間で争われたのが安永三年(一七七四年)から十五年にわたって続けられた宗名論争である。明治五年(一八七二年)太政官正院から各府県へ「一向宗名之儀、自今真宗ト改名可致旨」の布告が発せられ、ここに近代になってようやく「(浄土)真宗」と表記することが認められたのである。

### ●習俗

他の仏教宗派に対する真宗の最大の違いは、僧侶に肉食妻帯がゆるされる、無戒であるという点に

ある(明治まで、表立って妻帯の許される仏教宗派は真宗のみであった)そもそものは「一般の僧侶という概念(世間との縁を断って出家し修行する人々)や、世間内での生活する仏教徒(在家)としての規範からはみ出さざるを得ない人々を救済するのが本願念仏である」と、師法然から継承した親鸞が、それを実践し僧として初めて公式に妻帯し子をもうけたことに由来する。

真宗は、ただ如来の働きにまかせ、全ての人は往生することが出来るとする教えから、多くの宗教儀式や習俗にとられず、報恩謝徳の念仏と聞法を大事にする。加持祈祷を行わないのも大きな特徴である。また合理性を重んじ、作法や教えも簡潔であったから、近世には庶民に広く受け入れられたが、他の宗派からはかえって反発を買ひ、「門徒の物知らず」(門徒とは真宗の信者のこと)などと揶揄される事もある。



# 秋季彼岸法要

講師 隆野 正信 先生

皆さんちよつと南無阿弥陀仏とお念仏してもらえますか？

私たちに生きて働いてくださる仏さまは南無阿弥陀仏という声の仏さまなのです。形のある仏さまならば、私たちはそこに行かなければお救いにあずかれないという事になります。これは拜む対象としての仏さま。この私に働いてくださっている仏さまならばお礼を申し上げたいという時、何もなるところに向かつてでは人間の情として言いにくい。強情な私でもお念仏申す事が出来るようにご安置するのが形のある仏さまです。形がないからこそ南無阿弥陀仏の仏さまは十方衆生、生きとし生けるもの、みなすべて救わずにはおきませんよと働くことができる。仏さまの方からこの私に至り届いて五体の中に入り満ち、血となり肉となって働いてくださっている。その証拠がみなさま方の口から出てくださっている南無阿弥陀



仏のお念仏です。

さて、お彼岸とは彼方の岸、お悟りの世界、なじみの深い言葉で言うとお浄土のことです。太陽がま東から昇りま西に沈んでゆく、その彼方にお浄土がある。若い人には、行って帰ってきたものがないのだからお浄土などない。目で見えないものはない、という人もいますが、「明日」を見た事がある人はいなくても明日の予定、一週間、一年、十年先の計画まで立てています。私が思おうと思うまいと明日が必ず来るように、お浄土も私たちが信じようと信じまいと必ずあるのです。そこへやがて私たちも生まれさせていただくのです。そして南無阿弥陀仏の仏さまになる。今生の世界は、女が

いるから男がいる、子供がいるから親がいる。あれがあるからこれがあるという相対の世界ですからこの世の頭では理解しにくいですが、お浄土にお参りすると救うものと救われるものが一緒になって南無阿弥陀仏と同じお悟りの仏さまにならせてもらう。南無阿弥陀仏になるのです。

南無阿弥陀仏の声の仏さまならば、「真実の知恵がある故に真実の慈悲を生ず」お浄土でお悟りをただ楽しむだけじゃない。迷いの境涯にいらっしやる十方衆生を救わずにはおきませんよ、とこの娑婆境涯に現れいでくださる。

身内のご縁のある方をしるんで南無阿弥陀仏とお念仏を申されたならば、その一声一声の中に、「ここに私がおるよ、こうしてちゃんとお悟りの仏となって、迷ってることはないから心配することはない。それよりも娑婆境涯で迷っておるあなたの事が心配だから、こうやってナンマンダブ ナンマンダブと働いておる」それが、みなさま方の口から出てくださる南無阿弥陀仏のお念仏なのです。

(要旨)

## 浄土真宗 “豆知識”

浄土真宗では、なぜ

『般若心経』をあげない？

「般若」とは、真実を正しく見ぬく智慧です。『般若心経』は、真実を見ぬく智慧と菩薩の実践行によって煩惱を断ち切り、仏の覺りに至ろうとするものです。しかし、ひとくちに「煩惱」を断ち切るといっても、なまやさしいことではありません。

自らの力によって煩惱を断ち切ろうと教える『般若心経』に対し、「正信偈」は、阿弥陀如来のお力に、一切のはからいを捨てておまかせし、それによって救われたことよろこびが説かれたものです。

つまり、私たち真宗門徒が『般若心経』をおつとめしたり、写経することは、阿弥陀如来のお力の否定になります。『般若心経』をあげたりしないのは、そのためです。



報恩講法要のご案内

- ・ 期日 十一月二十二日(日)
- ・ 時間 朝席 九時半よりと  
 昼席 二時より
- ・ 講師 福高 英昭先生(福岡県)
- ・ 朝席終了後午後一時半までお齋(精進料理)があります。

追弔法要のご案内

報恩講の際、昨年十一月より本年十月までに亡くなられた方々の追弔の法要を午前十一時半より勤めます。ご遺族の方の多数のご参加をお待ちしております。

平成二十八年春季彼岸会法要

- (○のある日時にあります)
- ・ 時間 朝席十時よりと  
 昼席二時より
- ・ 講師 丸山 英人先生(福岡県)

三月	午前	午後
十七日(木)	○	○
十八日(金)	○	吹上
十九日(土)	吹上	吹上
二十日(日)	○	○
お中日	○	○

平成28年行事予定

一月	一日	修正会(正月法要)
三月	十七日(木) 二十日(日) (日:お中日)	春季彼岸法要
四月	三日(日) 二十三日(土) 二十四日(日)	和順会総会・花祭り・帰敬式 春季永代経法要
八月	十三日(土) 十五日(月)	盆 (一部地域は日が違います)
九月	十九日(月) 二十二日(木) (木:お中日)	秋季彼岸法要
十月	二十二日(土) 二十三日(日)	秋季永代経法要
十一月	二十日(日)	報恩講・物故者追弔法要
十二月	三十一日	除夜会

花祭り

- ・ 日 四月三日(日)
- ・ 時間 十一時より
- ・ 場所 興照寺本堂
- (和順会総会も合わせて行います)
- ・ ・ ・ ・ 花祭り関係諸募集 ・ ・ ・
- 余興参加者  
踊り・カラオケ・詩吟・楽器  
演奏等の参加者を募集します。  
ふるってご参加ください。

帰敬式

帰敬式とは法名を受ける式です。法名は本来生前に受けるものです。  
当寺では、花祭りの際に行っています。是非この機会にお受けください。  
帰敬式の受式希望の方、余興参加希望の方は、三月三十一日までにご連絡ください。

日赤への寄付のご報告

毎年八月中に賽銭箱に投ぜられました皆様の浄財を日赤に寄付しております。  
今年は一三八、一三〇円集まりました。皆様のご協力に心より感謝いたします。

平成二十八年のご法事

左表の下の年に亡くなられた方が、それぞれの年回忌法要に当たっておられます。

一周忌	平成二十七年
三回忌	平成二十六年
七回忌	平成二十二年
十三回忌	平成十六年
十七回忌	平成十二年
二十五回忌	平成四年
三十三回忌	昭和五十九年
五十回忌	昭和四十二年

あとがき

この冬は暖冬だとか。暖かいに越したことはありませんが、気候の変動の激しい近年、体調に充分留意されてお過ごしください。